

カヤツリグサ科 スゲ属

アイノコシラスゲ (合いの子白菅)

Carex pseudoaphanolepis Ohwi

自生環境

河川敷 など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因



全国的に見ても報告が少なく、野田市周辺でもかなり珍しい存在です。ただ知名度がとても低く、調査が及んでいない種類であるため、まずは実態把握に努める必要があります。

市内の分布状況

現時点では限られた場所で見つかっていません。ただ、今後調査が進めば、新しい自生地が見つかるかもしれません。

自生環境保護のため
場所は非公開です

特徴

- ☆ 河川敷など、川べりの湿った草地に生える多年草です。全国的に見ても稀な植物です。シラスゲとヒゴクサの自然交雑種と考えられていますが、雑種ではないかもしれません。
- ☆ 他のスゲの仲間と同様に5~6月頃に穂を出します。穂が出る頃の草丈は30~80 cm ほどで、一番上に雄小穂（雄花の集まり）が1本、その下に雌小穂が2~4本（雌花の集まり）がつけます。雌小穂は円柱形で、雌しべの柱頭は3つに分かれています。果苞はぷっくりと膨らみ、先がキュツとすぼまった形をしています。雌小穂はふつつ柄が無く、斜め上を向きますが、ときに柄が出て垂れ下がることもあります。
- ☆ 地下茎が横に長くのびます。葉の表側はやや青みがかった緑色で、裏は粉白色です。

雑種説もあるけど...

異なる2つの種類どうしが交雑してできた雑種を「種間雑種」と言います。かつて種間雑種と推定される植物の名前には、アイノコ（合いの子）またはアイ（合い）とつけられる傾向がありました。アイノコシラスゲも同様の理由でつけられた名前で、発見当初はヒゴクサとシラスゲの雑種と推定されていました。ただ、「雑種ではないのでは？」という指摘もあります。



ゆうしょうすい
雄小穂

一番上の小穂は雄花のあつまり

ししょうすい
雌小穂

雌花の穂は2~4本



かほろ
果苞

果苞の先はきゅつとすぼまる

雌小穂は斜め上を向くか、垂れ下がる



葉は緑色で裏側はやや白っぽい



地下茎を横にのびしながら広がっていく



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

